

ビルドテックリファインMF-IR

水性形二液外壁用低汚染遮熱無機成分配合フッ素系上塗材

◆製品データ

荷姿	16kgセット(A液:15kg、B液:1kg) 3.2kgセット(A液:3kg、B液:0.2kg)
塗布量	0.30~0.40kg/m ²
希釈	ローラーの場合:0~5%(清水) エアレスの場合:5~10%(清水)
艶	艶有・3分艶
色	アステック標準色68色
可使用時間	4時間以内(25℃)、2時間以内(35℃)

【対応素材】
モルタル・ALC・コンクリート・窯業系サイディング・金属サイディング
(カラー鋼板※1・ガルバリウム鋼板・ステンレス・アルミニウム)・各種旧塗膜
※1:フッ素鋼板は除く

【試験結果】
■JIS A 6909 建築用仕上塗材 『可とう性』 合格
■JIS K 5658 建築用耐候性上塗り塗料
『容器の中の状態』『表面乾燥性』『塗膜の外観』『ポットライフ』『隠ぺい率』『鏡面光沢度』『耐衝撃性』
『付着性(クロスカット法)』『重ね塗り適合性』『耐アルカリ性』『耐酸性』『耐湿潤冷熱繰返し性』 全て合格
■JIS Z 2911 かび抵抗性試験方法 『防かび性』 合格
■『防藻性』『防汚保持性』 全て合格 ※社内試験による

◆モルタル・ALC・コンクリート・窯業系サイディングの標準施工仕様

工程	製品名	荷姿	調合比	希釈	塗布量	塗回数	施工間隔(25℃)			塗装法
							工程内	工程間	最終養生	
下塗※1	① エポパワーシーラー	15kg	—	透明の場合: —	0.13~0.20 kg/m ²	1~2	2時間以上	2時間以上	—	ローラー/ エアレス
				白の場合: 1.5~3.0ℓ(清水)						
	② 水性一液 ビルドフィラー※2	16kg	—	0.3~0.9ℓ(清水)	0.80~1.5kg/m ²	1	—	5時間以上	—	多孔質ローラー
ビルドテックリファイン MF-IR A液	15kg	15	0.9~1.2ℓ(清水)	0.30~0.60kg/m ²	1~2	5時間以上	5時間以上	ウールローラー		
			0.6~0.9ℓ(清水)	0.70~1.2kg/m ²	1~2	5時間以上	5時間以上	リシンガン		
上塗	ビルドテックリファイン MF-IR A液	15kg	15	ローラーの場合: 0~5%(清水)	0.30~0.40 kg/m ²	2	4時間以上 5日以内	—	24時間 以上	ローラー/ エアレス
	ビルドテックリファイン MF-IR B液	1kg	1	エアレスの場合: 5~10%(清水)						

※1 下塗材に関しては下地の状態に応じて①、②のいずれかをご使用ください。 ※2 窯業系サイディング(初めての塗替え)には水性一液ビルドフィラーエポをご使用ください。

◆【金属サイディング(カラー鋼板※1・ガルバリウム鋼板・ステンレス・アルミニウム)の標準施工仕様】※1:フッ素鋼板は除く

工程	製品名	荷姿	調合比	希釈	塗布量	塗回数	施工間隔(25℃)			塗装法
							工程内	工程間	最終養生	
下塗	① エポパワーメタルJY A液	14.4kg	9	0.8~2.4ℓ (アステックシンナー-DX)	0.14~0.17 kg/m ²	1	—	4時間以上 7日以内	—	ローラー/ エアレス
	② サーマテックメタル プライマー※2	16kg	—	0.8~1.6ℓ (アステックシンナー-DX)	0.13~0.15 kg/m ²	1	—	4時間以上 7日以内	—	ローラー/ エアレス
上塗	ビルドテックリファイン MF-IR A液	15kg	15	ローラーの場合: 0~5%(清水)	0.30~0.40 kg/m ²	2	4時間以上 5日以内	—	24時間 以上	ローラー/ エアレス
	ビルドテックリファイン MF-IR B液	1kg	1	エアレスの場合: 5~10%(清水)						

※2:施工及び乾燥時の気象条件、金属下地の温度、また狭窄部(狭くすばまった部位)やトタンの継ぎ目部分等では、乾燥硬化に時間を要してしまう場合があります。乾燥硬化していない状態で上塗り施工した場合、本来の下地への付着性能が発揮できなくなる場合がありますのでご注意ください。

【下地調整】
・劣化し脆弱な部分及び錆等は、ディスクサンダー、スクレーパー等により除去する。 ・漏水箇所は予め水が浸入しないように処置し、汚れ、付着物、油脂類等を高圧洗浄、スクレーパーやシンナー等で除去する。
・塗装する下地は、清浄かつ、十分に乾燥させる。 ・劣化したシーリング材は全て撤去し、新規シーリング材で打ち替える。

【施工上の注意】
・B液は危険物第四類第二石油類に該当しますので、保管・取扱いには十分に注意してください。 ・B液は、開封後は変質しやすいため、冷暗所で密閉して保管し、2週間以内に使い切ってください。
・二液型塗料ですので、使用前に塗料を電動攪拌機等で十分に混合・攪拌(2分以上)してください。混合比率が不適切であったり、混合時間が不十分だと、低汚染機能が発揮出来ません。
・二液型塗料ですので、混合・攪拌後は可使用時間以内に使い切ってください。 ・施工部位によって低汚染機能が十分に発揮されない場合がありますのでご了承ください。特に雨が当たらない部位は注意が必要です。
・雨・強風・結露等の悪天候及びこれらが予想される場合には施工は避けてください。 ・5℃以下、湿度85%以上の施工は避けてください。 ・使用する前に塗料を十分に攪拌してください。
・ウールローラー施工の場合、塗回数が増えることがありますのでご注意ください。 ・エアレス施工の場合には塗装ロスが大きくなりますので、塗布量の上限値を目安にしてください。
・上記塗布量及び塗回数は下地の材質・状態等で増える場合があります。 ・シーリング材目地に塗装した場合、動きに追従出来ずに塗膜がひび割れることがあります。
・塗り継ぎや補修塗り(タッチアップ)を行なう場合は、ローラー又はエアレス等の塗装方法や希釈率の違いにより、色相差・曇ムラが生じることがありますので、作業後に仕上りをご確認ください。
・トタンの継ぎ目、折り曲げ部分は、塗膜が薄くなりやすいため、先に拾い塗りをすることをお勧めします。

■製品については下記までお問合せください。



製造・販売元 株式会社 アステックペイント

福岡本社 / 〒812-0013 福岡県福岡市博多区博多駅東3-14-1 9F
福岡事業本部 / 〒811-2233 福岡県糟屋郡志免町別府北4-2-8
東京営業所 / 〒102-0071 東京都千代田区富士見1-6-1-10F
大阪営業所 / 〒532-0011 大阪府大阪市淀川区西中島6-5-3 B1
沖縄営業所 / 〒901-2224 沖縄県宜野湾市真志喜1-1-6 B1

astecpaints.jp

ver.202208

Renewal Line
BUILDTEC
SERIES

リニューアライン
ビルドテックシリーズ

アステックペイント大規模改修専用

ビルドテック リファイン MF-IR

ビルドテックシリーズ



水性形二液外壁用低汚染遮熱無機成分配合フッ素系上塗材

艶有・3分艶



塗り替えた後の美しさが、ずっと続く。

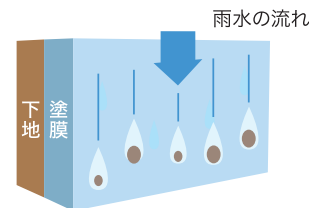
ビルドテックリファインMF-IR

超低汚染性 汚れにくく、美しい外観を保持する

ビルドテックリファインMF-IRは、無機成分の配合によって、塗膜が緻密なため汚れが付着しにくいのが特長です。また、付着した汚れも雨水によって洗い流される「親水性」を持ち、塗り替え後の美しさを長期にわたり保持し続けます。

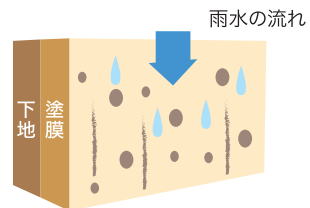
親水性

■ビルドテックリファインMF-IR



雨水が塗膜と汚れの間に入り込み、汚れが洗い流される。

■親水性の低い塗料



一度付着した汚れは流れ落ちにくい。

カビや藻の発生を抑え、長期間の美観保持に貢献。

「JIS Z 2911 かび抵抗性試験」および「藻抵抗性試験(社内試験による)」に合格。美観保持力の向上につながるのと同時に、アレルギーの原因にもなるカビを抑制する、健康にもやさしい塗料です。

カビ

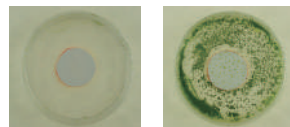
培養4週間後の様子



ビルドテックリファインMF-IR 汎用塗料

藻

培養4週間後の様子



ビルドテックリファインMF-IR 汎用塗料

無機成分とは？

紫外線により分解されない性質を持つ物質のこと。無機成分が主成分の「ガラス」は、汚れがついても簡単に洗い流すことができます。

ビルドテックリファインMF-IRは、無機成分の配合によりガラス表面についた汚れを水で洗い流すような現象を可能にしています。

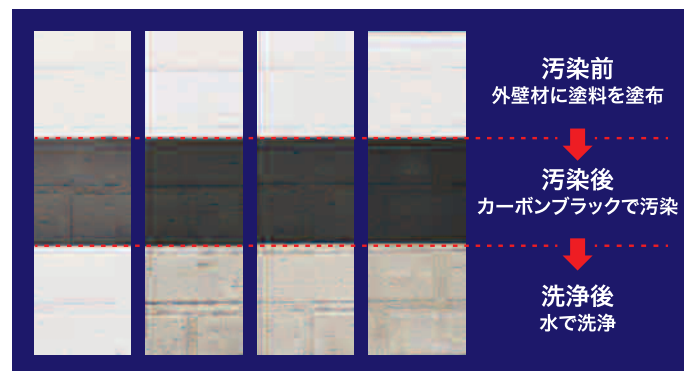


防汚性評価試験※

※社内試験にて実施

カーボンブラックを使った過酷な試験でも、圧倒的な汚れにくさを実証。

家の外壁に多い「サイディング」という外壁材の表面を各塗料で塗装後、カーボンブラック分散水で汚染させます。その後、水で洗浄し、汚染前と洗浄後で汚れの落ち具合を比較しました。ビルドテックリファインMF-IRは他社の塗料と比較して、汚染前・洗浄後の違いがほとんど見られませんでした。



ビルドテックリファインMF-IR 他社低汚染シリコン塗料 他社低汚染フッ素塗料 他社低汚染無機塗料

カーボンブラックとは？

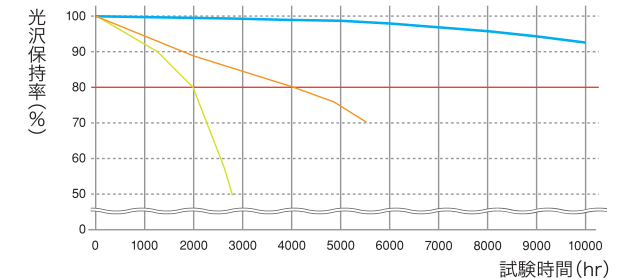
排気ガスなどに含まれる、汚れの主成分となる物質のこと。粒子が細かく雨水では落ちにくいのが特徴。

高耐候性 約20~24年相当の高い耐候性

ビルドテックリファインMF-IRは、キセノンランプ式促進耐候性試験において、約20~24年(期待耐用年数)経過後も光沢保持率80%以上を保持。

※あくまで試験環境下にもとづく推測値であり、耐候性を保証するものではありません。実際の自然ばく露環境下では、下地の状態、施工方法、気象条件により耐候性は異なる場合があります。

■ビルドテックリファインMF-IR
■一般フッ素塗料
■一般シリコン塗料



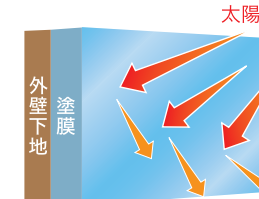
※測定値をもとに、グラフをなだらかに調整しております。

遮熱性・遮熱保持性

特殊黒色遮熱無機顔料が近赤外線を効果的に反射するため、蓄熱を抑えます。超低汚染性により汚れが付着しにくいため、汚れによる熱の吸収も防ぎ、優れた遮熱性を発揮し続けます。

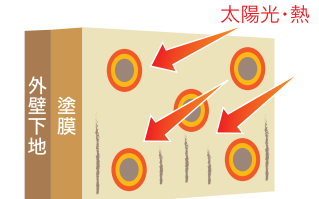
※建物構造、耐熱構造、開口部(ガラス窓)の大きさ・数によって温度変化の程度に差が出ます。

■ビルドテックリファインMI-IR



美しい塗膜表面を保つため、熱の吸収を防ぎ、遮熱保持性を発揮。

■一般遮熱塗料



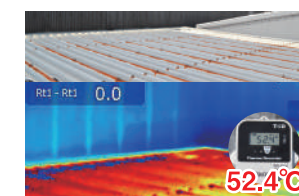
汚れが熱を吸収することで、遮熱性能が低下する。

実際の現場でも効果が証明されています。

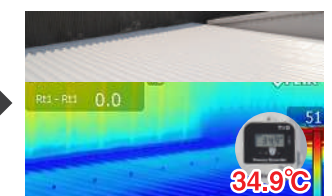
屋根の上に温度計を設置し、遮熱性の比較実験を行いました。外気温は5.4℃上昇しましたが、施工した箇所の表面温度は**17.5℃低下**しました。

■物件データ 福岡県 株式会社アステックペイント 福岡工場
●施工前 2015年5月22日 外気温 33.3℃
●施工後 2015年6月12日 外気温 38.7℃

■施工前



■施工後

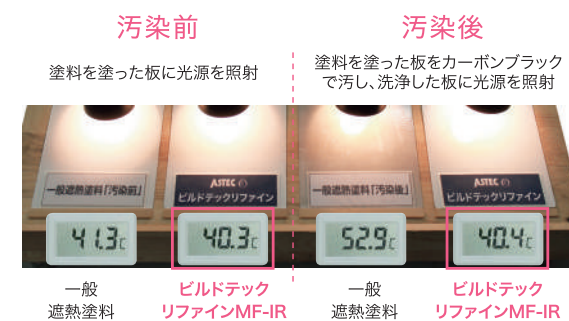


17.5℃低下

各試験でも効果が証明されています。

遮熱保持性比較実験※

※社内試験にて実施



4枚の板に同量の光源を照射したところ、ビルドテックリファインMF-IRを塗った板は、汚染前・汚染後でほぼ温度差がなく、遮熱性が維持されていることが実証されました。

防汚材料評価促進試験(I)※

※土木研究センターの試験に基づき社内にて試験を実施

■防汚材料評価促進試験(I)結果

	汚染前 日射反射率(%)	汚染後 日射反射率(%)	日射反射率 保持率(%)
ビルドテックリファイン MF-IR	90	89	99
遮熱シリコン塗料	85	27	32
遮熱フッ素塗料	88	42	48
変性無機塗料	85	76	89

塗膜表面をカーボンブラック分散水にて汚染させた後、水で洗浄し、汚染前・洗浄後の日射反射率から、日射反射率保持率を算出しました。その結果、ビルドテックリファインMF-IRは他社の塗料と比較し、日射反射率保持率が非常に高く、遮熱保持性に優れていることが実証されました。